

CoMSEP／第 65 回日本医学検査学会 発表関連記事

多職種連携医療専門職養成プログラムが開発を目指す医療専門職の卒前・卒後教育

医学医療系 會田 雄一

国内の臨床検査技師が集う第 65 回日本医学検査学会が、9 月 3 日と 4 日に神戸市で開催されました。今年は、第 32 回世界医学検査学会との同時開催であったため、海外からも多くの臨床検査技師が参加していました。さらに、日本臨床検査学教育学会と日本臨床検査医学会も同じ会場で開催されました。こうしたことから、今回の一連のミーティングは、臨床検査技師、臨床検査技師教育に関わる教員、臨床検査専門医、そして臨床検査を専門とする研究者が一堂に会する機会になりました。CoMSEP では、この一連のミーティングにおいて 2 つの演題を発表しました。

日本臨床検査学教育学会では「筑波大学における臨地実習前 OSCE の開発に向けた取組」という演題を発表しました。医療科学類で昨年度実施された臨地実習前 OSCE について報告するとともに、医療科学類の実習委員会が今年度作成した、OSCE を実施するにあたって必要になる「手引き」について紹介を行いました。

昨年 12 月に実施された臨地実習前 OSCE では、一昨年の試行を踏まえて、より客観的な試験を目指しました。その後、今年 2 月に「手引き」の作成に着手し、実習委員会での議論を経て、8 月に初版を発刊しました。この「手引き」には、臨床検査技師を目指す学生を対象とした OSCE で、臨地実習前のタイミングに評価すべき項目がまとめ

られています。今月実施される試行 3 年目の臨地実習前 OSCE は、この「手引き」に基づいて出題される予定です。

こうした臨地実習前 OSCE の開発が目指すところは、一つには、臨床検査技師を目指す学生が臨地実習に参加できる水準に到達していることを保証し、臨地実習を参加型にすることです。これまでの見学型から参加型の臨地実習になれば、臨地実習指導者である臨床検査技師は、実習期間中に、学生の医療専門職としての適正を評価できるようになると期待されます。その結果、国家試験に加えて、臨床検査技師の質を保証する新たなステップが生まれることになり、臨床検査のプロとしての質が高められると考えられます。

一方、学生にとってもメリットはあります。従来のように、臨地実習指導者から一方的に説明を受け、ときには医療の現場にいるのにも関わらず、座学のような時間を過ごしていた状況が改善されると思われます。すなわち、学生には臨地実習に臨むに当たって OSCE に合格してきたという自信が生まれます。そして、臨地実習指導者の下で、実際に手を動かすことによって、医療専門職としての意識が臨地実習を通して高められると期待されます。CoMSEP では、全国の学校で臨地実習前 OSCE が速やかに実施されるように、他校と連携していく予定です。

国家試験に合格し、晴れて臨床検査技師免許を取得すると、臨床検査のプロとしての第一歩を踏み出します。病院や検査センターなどに就職した後は、学会や日本臨床衛生検査技師会に入会して卒後教育の機会を得ることができます。また就職先においても、定期的に研修会が開催されており、技術の向上が図られています。そして最も身近で、何よりも重要な教育・研修の機会は、日々の業務を通して上司や先輩から直接指導をいただくことです。こうした教育・研修を生涯継続して享受することで、高度医療人材が養成されと考えられます。

CoMSEP では、新たな卒後教育として「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」という履修証明プログラムの開発を進めています。日本医学検査学会では「多職種連携によるメディカルスタッフの卒後教育を目指した履修証明プログラムの開発」という演題名で、開設 1 年目であった昨年度の実績を発表しました。この教育プログラムは、60 時間の e-learning の履修と、レポート提出を前提としたスクーリングからなります。

CoMSEP は、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業で“生体機能診断支援領域（診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士）”の一つとして選定されました。そして、この枠組みの中に、理学療法法の要素も取り入れていることが特筆すべき点です。私自身も、CoMSEP に携わったことをきっかけに、心臓リハビリテーション、呼吸ケア・リハビリテーション、そして腎臓リハビリテーションといった、検査部での日常業務では知り得なかった分野について学び始めることができました。

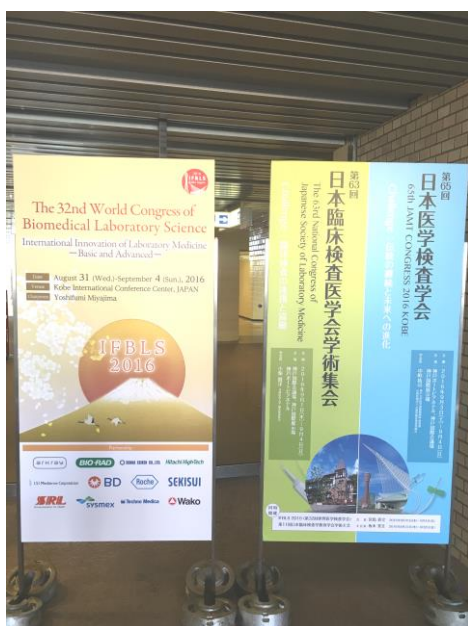
例えば、臨床検査技師や診療放射線技師が、リハビリテーションに関する研修会に参加して「理学療法士はどのように検査の結果を利用して、検査部あるいは放射線部に、どのようなニーズをもっているのか」と、さらに深めようとしたとします。こうしたとき、まずは理学療法士に直接お聞きするとともに、相手の職種についてよく理解することが必要になると思います。そこで活用できると思われるのが、筑波大学が開設した履修証明プログラムです。大学が提供する体系的な講義を通して、1 年間で臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士が専門としている分野を広く学び直すことができます。実際、昨年度は臨床検査技師 8 名、診療放射線技師 8 名、理学療法士 7 名、作業療法士 1 名の皆さんが教育プログラムを修了し、自身の専門分野を学び直すとともに、他の職種の分野について理解を深めています。

専門化・細分化された現在の医療では、学会、職能団体、大学が補い合って、必要な卒後教育を提供することが求められると思います。CoMSEP に携わって以来、これからの医療専門職の卒後教育では「シェアする」ことが重要であると考えようになりました。例えば、各病院で実施されている教育・研修をさらに充実させるとともに、地域の複数の病院が連携して教育・研修を実施する体制を構築することが必要であると考えています。病院同士で教育・研修の機会をシェアすることで、教育・研修体制の病院間格差を是正し、地域で人的資源を効率よく活用することが可能になるからです。また、大学がもつ教育資源を病院とシェアしていくことも必要かもしれません。その形の一つが、履修証明プログラムだと思います。



日本臨床検査学教育学会の発表会場

日本臨床検査学教育学会は、臨床検査技師国家試験の受験資格が得られる全国の学校から教員が集まり、臨床検査技師教育について学び合う機会になった。



世界医学検査学会の会場入口

日本医学検査学会には、全国から臨床検査技師が集まった。日本での世界医学検査学会の開催は、1988年以來、28年ぶりであった。

筑波医療科学 第12巻 第3号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
発行日	2016年9月23日